

6 CTによる口腔扁平上皮癌頸部後発リンパ節転移の検討

亀田 綾子・山口 晴香・織田 隆昭
 諏江美樹子・佐々木善彦・羽山 和秀
 土持 眞

日本歯科大学新潟生命歯学部
 歯科放射線学講座

【目的】当科における口腔癌頸部後発リンパ節転移の発現頻度，発現時期，CT所見について検討する。

【対象と方法】N0の口腔扁平上皮癌患者78例を対象とし，後発リンパ節転移の発現頻度，発現時期，治療前および転移発現時のリンパ節の大きさ，造影性の変化について検討した。

【結果とまとめ】当科における後発転移の発現頻度は21/78例，発現時期は1～42か月で，12か月以内が18/21例であった。転移発現時，転移リンパ節の長径，短径，長短比は治療前より大きくなり，rim enhancementが約半数に見られたものの，CT所見で治療前に後発転移をきたすリンパ節を判断するのは困難であった。

7 cN0舌癌のCT lymphography-リンパ経路と至適撮影タイミングについて

斎藤美紀子・西山 秀昌・勝良 剛詞
 林 孝文

新潟大学大学院医歯学総合研究科
 顎顔面放射線学分野

cN0舌癌10例に対し，CT lymphographyを施行し，個々の症例のリンパ経路と至適撮影タイミングを検討した。

【方法】腫瘍周囲に造影剤を注射し，2，5，10，15，20分後lymphography撮影を行った。強く造影される線状構造をリンパ流と判断し，その経路を群分けした。また，リンパ経路の各撮影タイミングにおけるCT値を計測し，経時的な変化を検討した。

【結果・考察】リンパ経路は4つに大別され，

概ね成書の記載と一致していた。造影剤注射後10分で最も強く造影された症例が多く，至適撮影タイミングは他領域よりも遅いと考えられた。

II. 特別講演

1 臨床に役立つ頭頸部領域の超音波診断

神奈川県立がんセンター
 頭頸部外科 医長

古川まどか

2 付着部と付着部炎

東京慈恵会医科大学
 放射線医学講座 教授

福田 国彦